

「学校と地域の連携・協働のための 教職員ガイドブック」

地域から信頼され応援される学校づくり

～地域学校協働活動のススメ～

(2019年改訂版)



岡山県教育委員会

目次

地域から信頼され応援される学校づくり ～ 地域学校協働活動のススメ～

はじめに	1
------	---

第1章 学校と地域の連携・協働

1 地域とともにある学校へ	2
2 地域学校協働活動とは	3
3 学校と地域との連携・協働の意義と効果	4

第2章 地域連携における組織体制

1 地域連携の推進体制	5
2 地域連携担当の役割と職務	6
3 地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）の役割と職務	7
4 コーディネートの流れ	8
5 おかやま子ども応援人材バンク	8

第3章 学校と地域との連携・協働の進め方

1 学校と地域の連携・協働状況の確認	9
2 学校と地域との連携・協働の進め方	10

第4章 学校と地域の連携・協働を進めるに当たって

1 教職員の心得	17
2 受け入れ体制の整備	18
3 地域の方を迎えるに当たっての留意事項	19
4 地域の方との共通理解について	20

第5章 実践事例

1 井原市立荏原小学校地域学校協働本部	21
2 美咲町立中央中学校地域学校協働本部	22
3 岡山県立誕生寺支援学校地域学校協働本部	23
4 浅口市立鴨方東小学校地域学校協働本部（鴨東セカンドスクール）	24

お役立ちシート集

ボランティア登録申請書	26
校内ニーズ調査用紙	27
学校支援ボランティアの心得	29
ボランティア連絡シート	30
ボランティア打ち合わせ・記録用紙	31
地域連携・協働活動年間計画	32

はじめに

近年、少子高齢化・情報化の進展等、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、子どもの学習意欲の低下や基本的な生活習慣の乱れ、体験・経験不足、コミュニケーション能力の低下等、学校だけでは対応が困難な多くの課題が指摘されています。

本県においても、子どもの暴力行為等の問題行動や不登校、学力向上等、早急に取り組まなければならない課題が山積しており、県教育委員会としても総力を上げて取組を進めているところです。

一方、国においては教育改革の方向性が打ち出されており、予測困難な時代を生き抜く力を育むために、「チーム学校」「社会に開かれた教育課程」「カリキュラム・マネジメント」等のキーワードのもと、学校と地域の連携がより一層求められています。

これらのことから、確かな学力、豊かな心、健やかな体をもち、将来の夢や希望を胸に生き生きと成長する子どもたちを育むためには、学校・家庭・地域の連携・協働した教育活動が不可欠となっています。

地域の様々な方が学校教育活動に関わることで、子どもの学ぶ意欲の向上や落ち着いた学習環境づくりにつながったり、教員が子どもと向き合う時間が増えたりするなどの働き方改革への効果が見られています。また同時に、地域にとっても、学校を核に新たな絆が生まれ、地域の教育力の向上と地域活性化が図られます。

県内各地においては、地域学校協働活動の取組が広がってきています。今後、学校と地域がお互いパートナーとして結びつきを強め、学校・家庭・地域がそれぞれの責任をより一層果たしながら、一体となって効果的な取組を実践することで「地域とともにある学校づくり」が推進されます。

岡山県では、平成24年度から、学校側の組織的な体制整備として、全ての公立小中学校、県立学校に地域（家庭を含む）への窓口として「地域連携担当」を校務分掌に位置付け、その推進に努めています。

このガイドブックは、教職員が学校・家庭・地域の連携・協働による教育活動を理解し、地域とのパートナーシップのもと、学校と地域が連携・協働して子どもを育む地域学校協働活動を積極的に進めていただくための手引きとして新たに改定しました。この手引きが大いに活用され、学校・家庭・地域が一体となった取組の推進に役立てていただけることを期待しています。

2019年3月

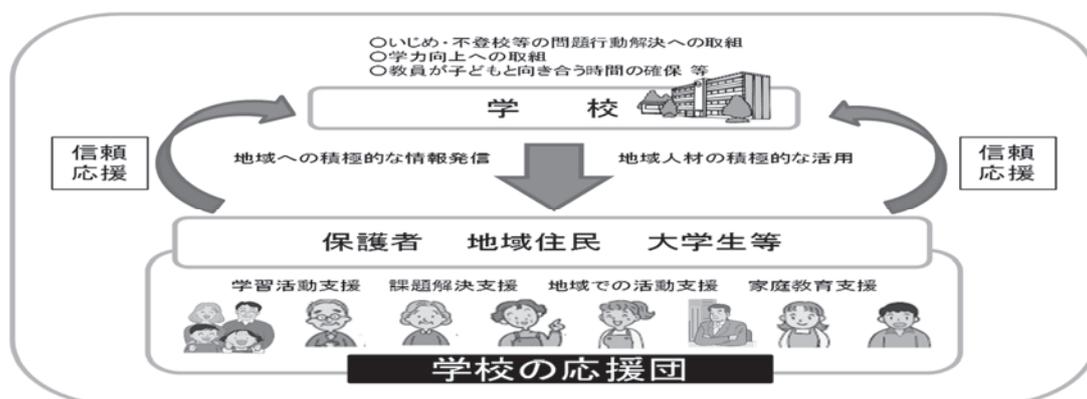
岡山県教育委員会

第1章 学校と地域の連携・協働

1 地域とともにある学校へ

学校運営に地域住民や保護者等が参画することを通して、学校・家庭・地域の関係者が目標や課題を共有し、地域のニーズを反映させながら、学校の教育方針の決定や教育活動を実践し、地域ならではの創意工夫を生かした特色ある学校づくりを進めていくことが求められています。

子どもたちの教育をよりよいものにしていくには、地域の人的・物的資源を生かしながら、教育課題を学校だけでなく地域全体の課題へとつなぎ、連携・協働して解決していくことが必要です。地域との結びつきの中で、「**地域とともにある学校づくり**」を積極的に進めることで、地域から一層信頼され、地域が学校の応援団として、さらには、パートナーとしてともに課題や目指すビジョンを共有し、課題解決に取り組んでいくことができます。



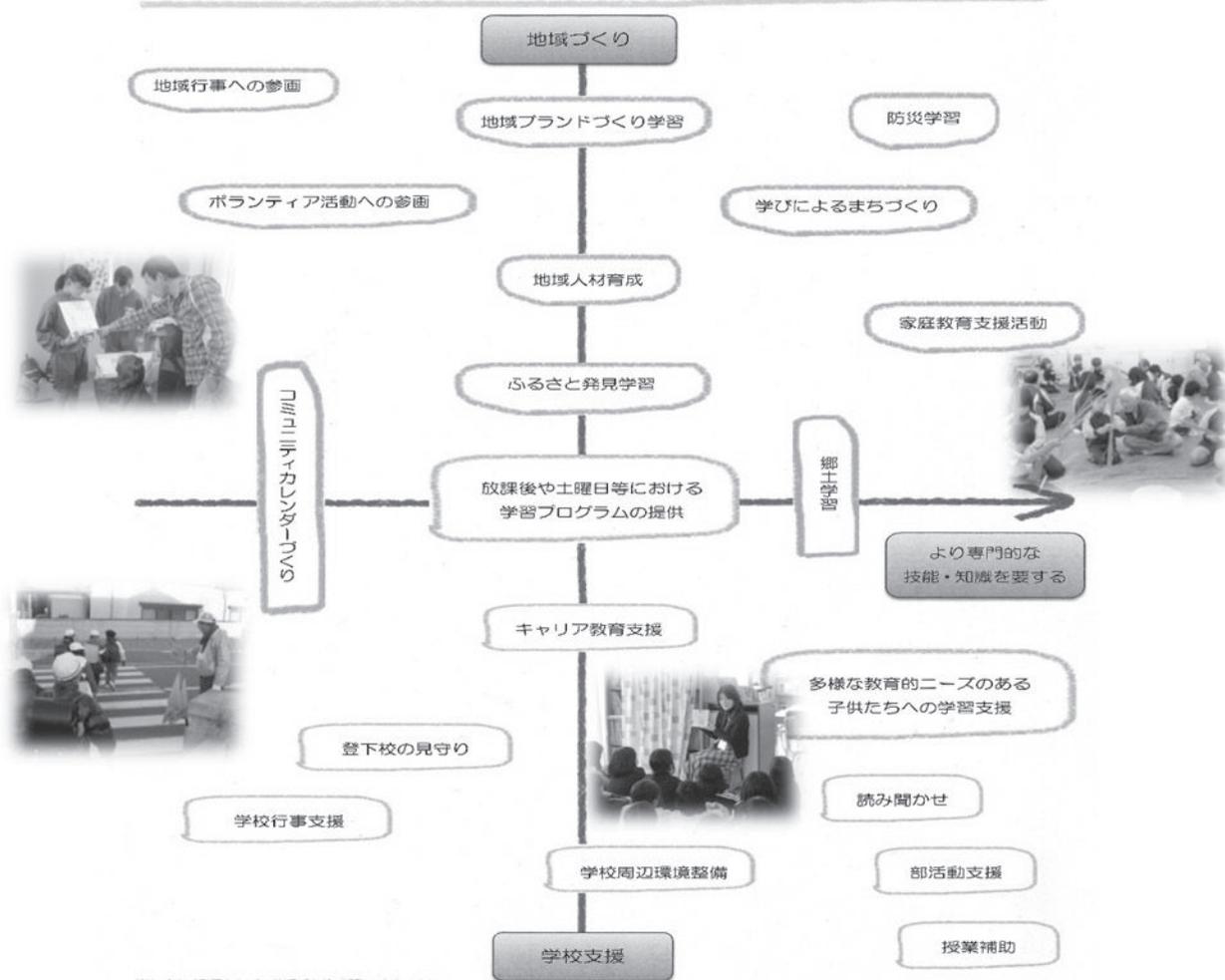
地域住民やPTA、地域団体やNPO等の参画により組織された「**地域学校協働本部**」を中心に、様々な地域人材による学校と地域が連携・協働した活動（**地域学校協働活動**）を通して、子どもたちにより充実した教育活動を行うことができます。



2 地域学校協働活動とは

「地域学校協働活動」（以下「協働活動」と表記）とは、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「**学校を核とした地域づくり**」を目指して、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動です。

地域学校協働活動として、例えばこんな取組が考えられます。



※あくまで例示としての分類であり、活動の内容により、その位置付けは変動することが想定されます。

文部科学省「地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来」より（2018. 3）

岡山県では、「学校支援地域本部」を中心として、学校・家庭・地域の連携による「学校支援」の取組が推進されてきました。現在は、学校支援地域本部を基盤に「**地域学校協働本部**」（以下「**協働本部**」と表記）として、協働活動が進められています。「協働本部」を中心に、地域と学校が対等な立場で、ともに同じビジョンをもち、連携・協働して活動を進めていくことが「協働活動」へとつながっていきます。

図のように、今までの「学校支援活動」も「協働活動」の一部としてとらえ、学校・家庭・地域がみな当事者意識をもって、教育課題の解決や地域課題の解決を学校と地域で連携・協働して取り組んでいくことが大切です。

3 学校と地域との連携・協働の意義と効果

① 学校と地域との連携・協働の意義

学校を取り巻く問題は複雑化・困難化し、今や学校だけでは対応が厳しい現状があり、社会総掛かりで対応することが求められています。そのために、学校と地域がパートナーとして連携・協働し、組織的・継続的な仕組みを整備していくことが必要不可欠となってきます。

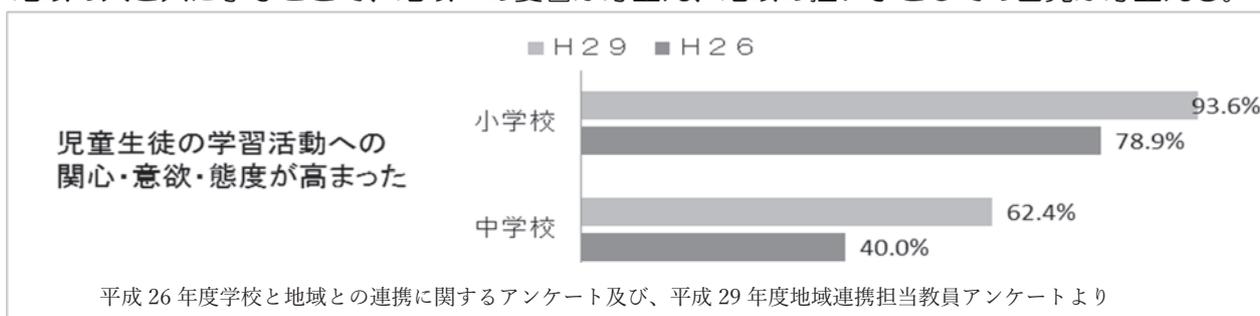


新学習指導要領の「**社会に開かれた教育課程**」の実現を目指し、学校と地域が連携・協働することで、子どもたちに未来の創り手となる必要な資質・能力を育むことができます。

② 学校と地域の連携・協働の効果

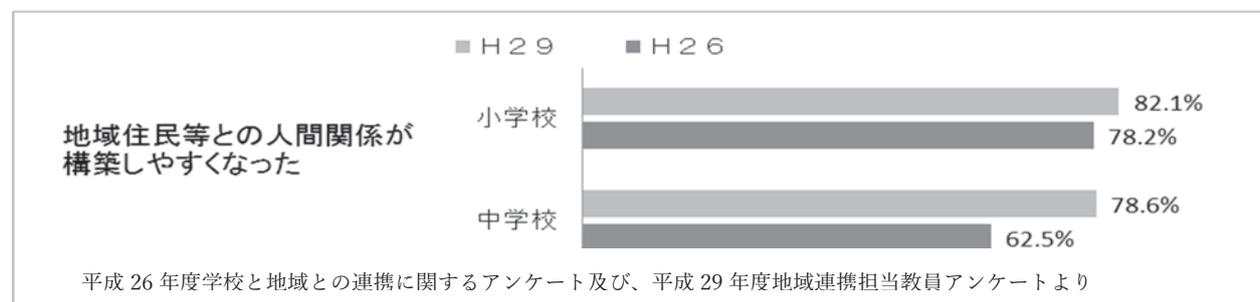
子どもにとって

- ・多様な人との関わりの中で、社会性やコミュニケーション能力が育まれる。
- ・地域の人から褒められることで、自己肯定感や学習意欲が高まり、学力向上の基盤が形成される。
- ・地域の人と共に学ぶことで、地域への愛着が芽生え、地域の担い手としての自覚が芽生える。



学校にとって

- ・地域の人々の専門的な知識・技能や地域資源を教育活動に生かすことができる
- ・地域の人との関わりが深まり、地域と学校双方の理解が深まる。
- ・多様な視点での取組が可能となり、新たな発想や工夫で教育活動が展開できる。

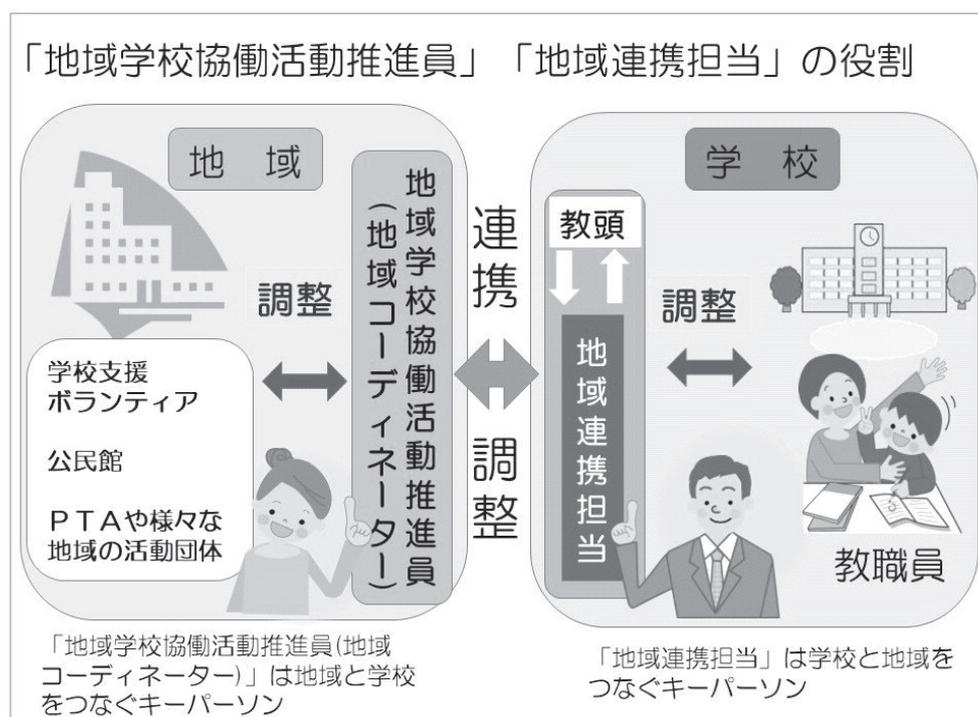


地域・保護者にとって

- ・自分の経験や知識を生かすことで、地域住民の自己実現につながる。
- ・子どもへの関わりを通して、地域住民同士のつながりが生まれる。
- ・社会参加、社会参画の場となり、地域の活性化につながる。



第2章 地域連携における組織体制



1 地域連携の推進体制

近年、少子高齢化・情報化の進展、子どもを取り巻く環境の変化の中で、学習意欲の低下や基本的な生活習慣の乱れ、体験活動の不足等、学校だけでは対応が困難な状況があります。

それらの課題を解決するためには、地域の力が不可欠です。そこで、学校と地域の連携を推進すべく、**地域連携担当**が、平成24年度より県内すべての公立学校で校務分掌に位置付けられました。

校務分掌に位置付けられることで、地域連携における学校側の窓口を明確にするとともに校内の体制を整備し、学校と地域が連携・協働した地域学校協働活動を効率的・効果的に展開していくことができます。

また、地域の窓口である**地域学校協働活動推進員(地域コーディネーター)**を設置することで、より効果的で、継続的な地域学校協働活動を進めていくことができます。(以下「**推進員**」と表記)

なお、場合によっては、地域連携担当と教頭等管理職が連携協力を図りながら、役割を分担しながら活動を進めていくことも効率的・効果的な体制づくりにおいて重要です。

【教頭等と地域連携担当の役割分担例】

教 頭	学校全体の方向性提示、地域との目的共有、地域連携担当への指示、地域連携の機会を促進、学校通信等による情報発信
地 域 連 携 担 当	校内の地域連携情報の集約、全体計画の作成・提示、校内研修計画の作成・実施、地域(推進員、ボランティア)との情報交換など

2 地域連携担当の役割と職務

① 地域連携担当の役割

学校側の窓口として、学校教育方針のもと、学校内のマネジメントとともに、推進員と連絡調整をしながら、組織として効果的・効率的な体制を整える。

② 地域連携担当の職務

【学校内で（教職員と）】

- 地域連携に関する計画を作成及び活動の見直しをする。
- 地域連携に関する校内のニーズの把握する。
- 地域連携に関する研修の機会をつくるなど、教職員の共通理解を図る。
- 地域からの情報を教職員に伝達する。

【学校外で（推進員や地域と）】

- 家庭や地域へ学校の情報を積極的に発信する。
- 地域（推進員やボランティア）と連絡調整し、連携を深める。
- 学校の願いや課題についてPTAや地域とともに話し合う場をつくる。

③ 地域連携担当に期待される力とは

- 教育目標をもとに、地域の特色にあった地域学校協働活動を推進するリーダーシップ
- 地域とのネットワークづくりを促すコーディネート能力
- 保護者や地域住民と良好な信頼関係を築くことができるコミュニケーション能力
- 地域資源や課題を生かした授業をデザインする能力
- 社会に開かれた教育課程を体系化していくカリキュラム・マネジメント能力
- 主体的・対話的な深い学びの場を企画・運営するファシリテーション能力

「地域連携担当」は学校と地域を結ぶキーパーソンであり、上記のような力を身につけることが今後望ましいと考えます。

以上のことを踏まえると、学校の中でもミドルリーダー的存在の教職員であると言えます。また、社会に開かれた教育課程を実現するためには、授業実践を行う教員と学校・地域の連携・協働の中核を担う地域連携担当がビジョンの共有を図ったり、地域資源を教材化したりのワークショップを研修等で実施していくことも考えられます。

そこで、学校教育だけでなく、社会教育や家庭教育も十分理解した上で、担当すればさらに地域連携が推進できるでしょう。そのために、大学等で実施される「社会教育主事講習」を受講し、**社会教育主事（社会教育士 2020～）**の資格をとることも有意義です。



3 地域学校協働活動推進員の役割と職務

① 地域学校協働活動推進員の役割

学校と地域をつなぐキーパーソンです。地域側の窓口としてボランティアと連絡調整しながら、地域連携担当と連携し、教育活動の実施と充実に努めます。

② 地域学校協働活動推進員の職務

【学校内で（地域連携担当や教職員と）】

- 地域連携担当や教職員との活動実施に向けての連絡調整をする。
- 学校や地域の実態に応じた協働活動の企画提案を行う。

【学校外で（ボランティアや企業・団体と）】

- ボランティアへの活動依頼や連絡調整を行う。
- 地域資源（人・もの・こと）の発掘を行う。
- 企業・団体との連携を推進する。
- ボランティア便り等による地域への情報発信を行う。

③ 地域学校協働活動推進員にふさわしい方とは

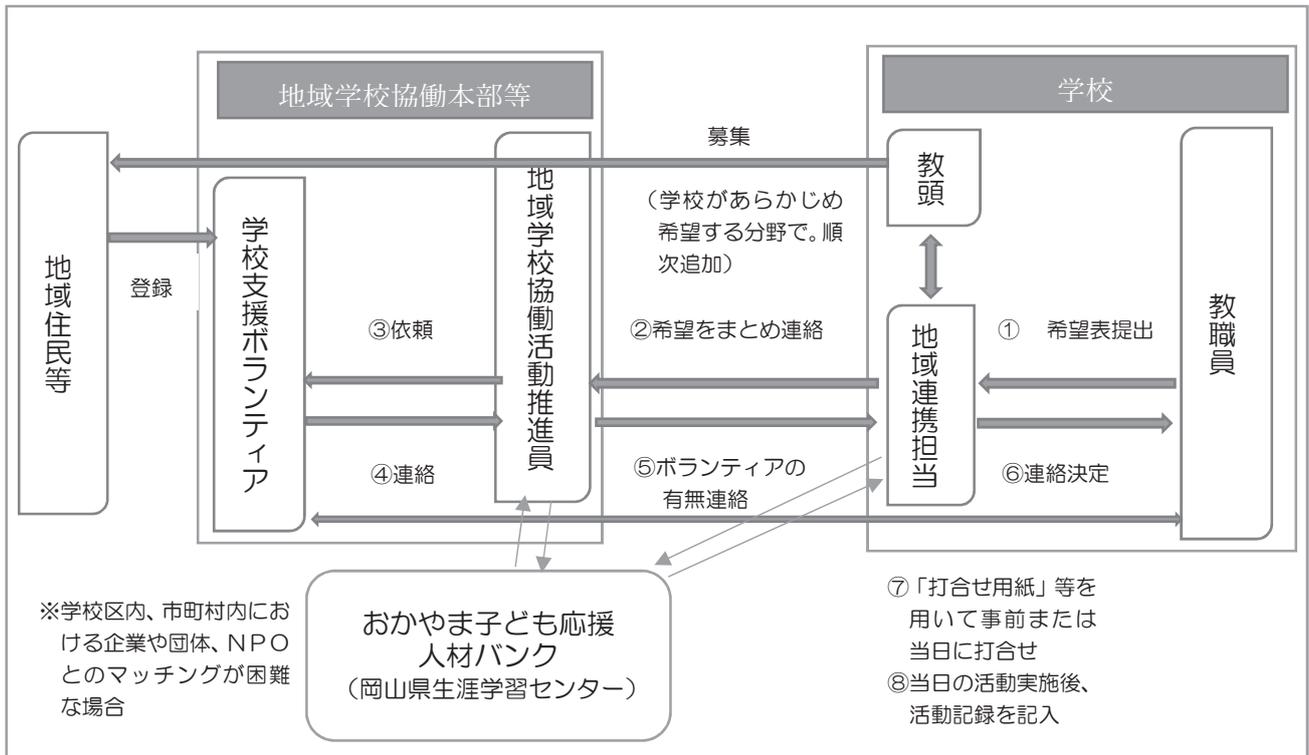
- 地域住民や地域団体、地域行事等に詳しい方（自治会関係者等）
- 子どもや地域のために役に立ちたいという思いの方（元教員や保護者、ボランティア等）
- 広範囲につながりがある方（企業関係者、高等教育機関関係者等）

④ 地域学校協働活動推進員の名称について

岡山県では、地域側の窓口を「地域コーディネーター」と呼んでいました。平成29年の社会教育法が改正され、地域人材の中でコーディネーターとしてふさわしい方を教育委員会が法律に基づき「**地域学校協働活動推進員**」として**委嘱することで立場を明確にすることができるようになりました**。学校現場では、今後、教育委員会から委嘱された方を「推進員」とお呼びください。

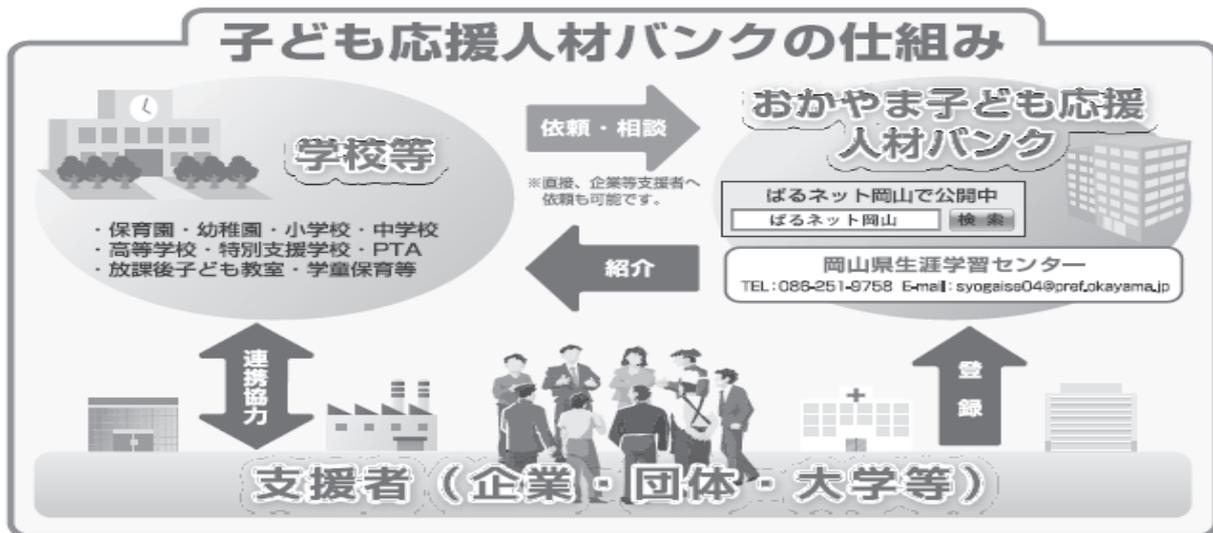
※社会教育法第9条の7において、教育委員会は、地域学校協働活動の円滑かつ効果的な実施を図るため、社会的信望があり、かつ、地域学校協働活動の推進に熱意と識見を有する者のうちから、「地域学校協働活動推進員」を委嘱することができることとしています。

4 コーディネートの流れ



※コーディネートの一例です。学校の実態に合わせて柔軟にコーディネートしてください。また、参考資料等は本誌の「お役立ちシート集」をご活用ください。

5 おかやま子ども応援人材バンク



教育活動に支援していただける企業や団体を登録し、ホームページで公開するとともに、学校の求めに応じて、登録企業等を学校に紹介するしくみが「おかやま子ども応援人材バンク」です。出前授業や校外学習、社会貢献活動の受け入れ等で提供できる教育支援活動がそろっています。外部人材による教育支援を希望する学校は、「岡山県生涯学習センター」の「ばるネット」をご覧ください。

第3章 学校と地域との連携・協働の進め方

1 学校と地域の連携・協働状況の確認 まずは、ここから・・・

学校と地域の連携・協働については、地域と学校の実態をとらえた上、学校長の学校教育目標のもとに進められていきます。

地域連携担当は学校全体の協働活動の総合調整を行うミドルリーダーとして、まず、自校の連携・協働状況を把握することが大切です。そして、さらなる体制の整備のためにどのようなことが必要かを考えていくことが次へのステップにつながります。

ここでは、連携・協働状況の確認のめやすとしてのチェックシートを作成しましたので、自校の状況を確認し、次のアクションにつなげていきましょう。

○：当てはまる △：やや当てはまる ×当てはまらない

チェック項目	○ △ ×
1 地域連携・協働活動に関する年間計画が作成されている。	
2 教職員が地域連携や協働活動の意義を共通理解する場がある。(研修や職員会議等)	
3 地域学校協働活動推進員が設置されている。	
4 地域学校協働活動推進員との話し合いや情報共有がされている。	
5 ボランティアルームの設置や教職員への周知など、ボランティアの活動環境が整っている。	
6 活動が子どもたちにとって、体験にとどまらず、ねらいに沿った教育活動になっている。	
7 ボランティア募集や学校の教育活動、ボランティア活動の様子を載せた広報を地域に情報発信している。	
8 活動継続のために、ふりかえりや情報の蓄積を行うなどチーム体制づくりが行われている。	
9 活動の記録を取りまとめ、次年度の年間計画の見直しに生かしている。	
10 地域と学校がともにビジョンやめざす子ども像の共有するワークショップや熟議等を行っている。	

まずは、各校の実態を把握し、できるところから少しずつすすめていきましょう。



2 学校と地域との連携・協働の進め方

Step 1 地域連携の趣旨と連携・協働体制の共通理解

地域連携担当は、教頭と協力して校内研修等を設定し、**学校の教育方針や地域と連携することの目的などを確認したり、疑問や効果などを話し合ったりして学校としての方向性の共通理解を図りましょう。**本誌2ページから4ページを活用し、協働活動の趣旨を全教職員に説明したり、地域との連携・協働を進めるに当たっての注意点等を本誌16ページから18ページを活用し、共通理解を図ったりすることも効果的です。

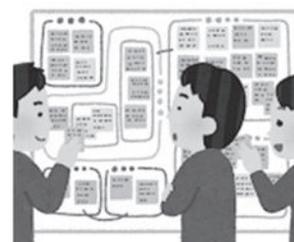
また、連携は「目的」ではなく「手段」です。学校の教育方針のもと、「何のために連携するのか」というねらいを明確にすることが大切です。

職員会議や校内研修で

協働活動を組織的・効果的に推進していくためには、教職員一人一人の協働活動に関する理解を深め、組織的に取り組んでいくことが必要不可欠です。職員会議の中で、地域連携や協働活動の意義や業務における注意点を年度始めに共通理解していくことはとても重要です。

【地域連携や協働活動の意義・必要性について】

- 法令や答申等の流れや学習指導要領での位置付け
 - ・地域とともにある学校づくり（学校を核とした地域づくり）
 - ・地域学校協働活動
 - ・社会に開かれた教育課程の実現 等



【学校と地域の連携・協働体制について】

- 校内での連携・協働体制
 - ・ニーズの集約方法
 - ・推進員やボランティアとの連絡調整方法
 - ・記録のまとめ方（各種様式の説明）
 - ・年間計画の作成方法 等
- 地域の受け入れ体制
 - ・地域との連携・協働に当たっての教職員の心得
 - ・受け入れ体制の整備 等



【連携に関する活動づくりについて】

- 地域理解の促進・地域資源の活用 等
 - ・講話や講義の他に、フィールドワークやワークショップ等も考えられる。

※夏期休業中に職員研修の中で、地域住民や保護者とともに、地域と学校の連携・協働に関するワークショップを実施することも地域学校協働活動を推進していく上で有効です。次のページに簡単なワークショップ（案）を掲載していますので参考にしてください。

地域みんなで子どもの未来を考えるワークショップの進め方（例）

ねらい	学校及び地域の様々な立場の方が一緒になって子どもの未来を考えることを通して、「学校×地域の協働」への機運を高め、今後、学校と地域が協働して行うべきアクションプランへの足がかりとする。	
想定される参加対象者	学校教職員・保護者・PTA 関係者・地域学校協働活動推進員・学校支援ボランティア・地域団体役員・地元企業関係者・教育委員会職員など	
事前準備	教職員や保護者、地域による5名程度のグループ編成。自己紹介カードの記入。	
学習活動(70分)	活動の流れ (○ねらい ●ポイント)	準備物
1 はじめに(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ・学校長挨拶・ワークショップの趣旨説明 	
2 アイスブレイク ・自己紹介&役割分担(5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○緊張感をとり、安心して発言できる雰囲気をつくる。 ・ワークショップの際の3つの約束(平等、尊重、秘密)の確認。 ・自己紹介カード(事前に記入)をもとに、自己紹介。 ●自己紹介の際、名前の他に、子どもや地域に関する「自慢」というお題を入れると、次のワークショップのテーマにつながる。 ・各グループの役割分担(進行、発表)を決める。 	ワークショップの際の3つの約束 自己紹介カード
3 ワーク① ・ビジョンの共有(15分)	<ul style="list-style-type: none"> ○地域と学校が一緒に子どもを育てる可能性を認識し、それぞれのめざす子ども像を共有する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>〇〇学区の子どもがどう育ってほしいか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループに配られた黄色のふせんに、参加者それぞれが1項目に一つ記入する。(5分程度) ・グループの進行が中心となり、ふせんを発表しながら模造紙に整理していく。(10分程度) ●似た意見はまとめグループ分けし、それぞれのグループにわかりやすい名称をつけ、可視化する。 	模造紙 ふせん マジック
4 ワーク② ・アイデア出し ・全体共有(35分)	<ul style="list-style-type: none"> ○共有したビジョンの実現に向けて、具体的な行動を考慮することで、参加者の期待感や当事者意識を高める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>学校・家庭・地域で、何ができるか？一緒になってできることはないか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・各グループに配られた赤色のふせんに、参加者それぞれがビジョン実現に向けたアイデアを記入する。(10分程度) ・グループの進行が中心となり、ふせんを発表しながら模造紙に整理していく。(15分程度) ・グループ内での発表後、ファシリテーターが、2～3つ程度のグループに発表を促し、全体共有を図る。(10分程度) 	模造紙 ふせん マジック
5 おわりに ・ふりかえり ・挨拶(10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○アンケート用紙に気づきや意気込みなどを記入し、情報共有して行動への機運を高めるとともに、小さな行動を生み出す。 ・学校長挨拶・アンケート回収 	アンケート用紙

※詳しくは、文部科学省のHPにある「地域みんなで子供たちの未来を拓くワークショップのすすめ」をご覧ください。

Step 2 学校のニーズの集約

教員は学校支援ボランティアの協力を得たいと思っても、協力してくれる人材を見つけることが難しい実態があります。そこで、教員がどのような地域人材を求めているかを把握し、地域学校協働活動推進員あるいは学校とのパイプをもった人物に伝えることは、協働活動を促進し、児童生徒の教育活動の充実につながります。

そこで、教員の「この授業のとき、こんな支援があるといいなあ」「この活動はこんな状況だったからもっとスムーズに進むのに」といった声を拾い上げるために、「**教員のニーズ**」を出し合います。

例えば以下のようなタイミングで、教員のニーズ調査を行うと良いでしょう。

本誌27・28ページのニーズ調査票を参考にしてニーズの集約に努めてみましょう。（年間計画策定時期、学期ごと、2ヶ月ごと 等）

そのための調査表として以下のような項目があればよいでしょう。

○学年 ○教科・領域 ○単元名 ○活動内容 ○時間
○実施期間 ○必要な地域人材（人数等も） ○必要な施設 等

（例1）

「学校支援ニーズ集約表」第3学年
子どもの豊かな成長のために、学校が必要としている支援（教職員のニーズ）を挙げましょう。

こんなとき こんなことで	だれに どこで	どのような

※外部の方に協力してもらえるとありがたいなあと思う活動、またはこんなことができる人がいればありがたいなあと思う人材、こんな環境だといいなあと思う状況を具体的に書いてください。

（例2）

「学校支援希望予定表（2学期分）」
第5学年
子どもの豊かな成長のために、学校が必要としている支援（学校のニーズ）を挙げましょう。

9月	10月
11月	12月

地域連携活動を一覧表にまとめると、推進員（コーディネーター）は「いつ」「どのような人材が必要か」を知ることができ地域人材との連絡調整が効率的になります。また、年間計画の反映にも活用することができます。



Step 3 地域との連絡調整

① 地域学校協働活動推進員への依頼

推進員に活動の依頼をする場合、児童生徒の現状や実態、そして、どんな目的で何を必要としているのかを伝えます。推進員に思いを伝えることで、推進員はこうした内容や教員の思いをもとに、児童生徒にとって一番良い方法を考えてくれます。

学校や教員と推進員が、意思の疎通を重ねることで信頼関係が構築され、よりスムーズな連携・協働体制が整えられます。

② 地域学校協働活動推進員との打ち合わせ

推進員との打ち合わせは、**書面を活用し、顔を合わせて行うこと**が大切です。これは、確認不足や思いのちがいによるトラブルを避けるためです。そのために、学校側と地域側とが共通理解できる**共通の文書様式**があると、効率的・効果的に打ち合わせができます。

次に、協力してくれるボランティアが決まれば、学校が希望する具体的な活動内容を打ち合わせましょう。その際、初めてのボランティアには、守秘義務や人権等のボランティアの心得や保険等もきちんと共有し、承諾いただきましょう。年度始めに**ボランティア説明会やボランティアの顔合わせ会等の機会**を活用することも考えられます。本誌29ページをご活用ください。

また、授業に入ってもらえる場合、活動依頼は早めに伝えましょう。屋外での活動の場合、天候に左右されることがあります。雨天の場合も含め、活動を考えておく必要があります。打ち合わせでは、**学習のねらい、活動の流れ、活動場所、ボランティアの役割（準備物、どこで、何を、どんなふうに、何分くらい）**についても話し合っておきましょう。本誌30・31ページを参考にしてください。

(打ち合わせ用紙例)

学校支援ボランティア事前打ち合わせ用紙	
年 月 日	
活動日	年 月 日 () 活動時間: ~
	活動予備日 月 日 () 活動時間: ~
対象	小・1 2 3 4 5 6年 中・1 2 3年 (人)
活動場所	教室 (年 組) ・体育館・運動場・特別教室 () その他 ()
活動名	
(分野)	教科等 () 総合的な学習の時間 () 学校行事 () クラブ活動・部活動 () 環境整備 () その他 ()
ねらい	
希望人数	() 人程度必要 () 人以上必要。
	(資料、経費 など)

担任や地域連携担当との打ち合わせも左のような様式があれば、短時間で行うことができます。また、打ち合わせ用紙を保存しておけば、来年度の活動にも役立ちます。



Step4 情報発信と情報収集

一つ一つの活動が、学校・家庭・地域のつながりを生むきっかけとなります。学校だよりやホームページ、市町村の広報誌等を活用し、活動の成果を家庭や地域に発信するとともに、多くの方々に参加や参画を呼びかけましょう。

① 情報発信の目的と内容

活動の中には、地域の一部の方だけが参画し、保護者や地域に活動があまり知られていないということもあります。多くの地域の方や保護者、関係機関や団体等多様な主体の参画を促進していくためには、学校から必要な情報を積極的に発信していく必要があります。

学校で何が行われているのか、学校が何を求めているのかを地域に情報発信しながら、地域に積極的に関わることで、地域の学校への理解が深まり、信頼関係が構築されることによって、地域住民や保護者の協力が得やすくなり、学校の応援団となります。

活動については、実施したプログラムの記録は残っていることが多いですが、活動状況の記録写真や参加者の感想等は、ともすれば、共有されることなくデータだけパソコンに眠っていることもあります。**学校だよりやホームページ等の情報誌にまとめることによって、協働活動の記録としての意味も出てきます。**視覚的なものは、教職員のみならず、地域や保護者にとっても、わかりやすい資料です。推進員や管理職とも相談しながら、情報発信をしていきましょう。

② 情報発信と情報収集の内容と方法

【地域への情報発信】

内容	場・時	方法
○学校教育目標 ○年間行事予定 ○子どもたちの活動の様子 ○地域連携に関する取組の様子 ○ボランティア募集や依頼 等	○授業参観日・保護者会 ○学校公開日・学校行事 ○掲示板 等	○学校だよりやボランティアだよりによる印刷物での発信 ○学校のホームページでの発信 ○学校に地域が集まる際に発信 ○地域の広報で発信 等

【地域からの情報収集】

内容	場・時	方法
○自治会や地域団体の様子 ○地元企業やNPOの活動 ○ボランティア希望 ○子どもの通学路や防犯 ○地域の避難場所や防災 等	○PTA総会 ○地区懇談会 ○自治会の会議 ○回覧板 ○情報誌 等	○会議での聞き取り ○会議への出席 ○ケーブルテレビを観る ○新聞や広報誌を読む 等

④ 活動への位置付け

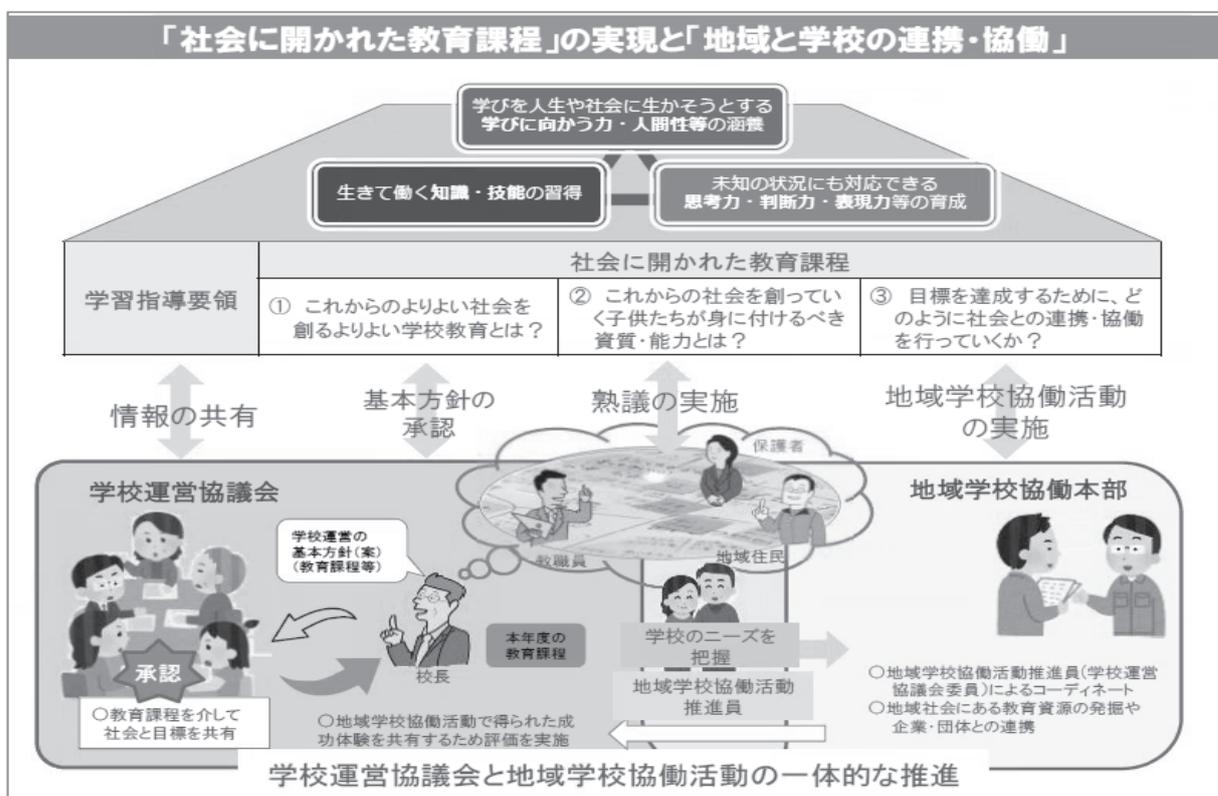
地域連携担当と教務主任等との連携のもと、全学年分の年間の活動を検証し、参考資料のように一覧表に取りまとめ、次年度に引き継ぎましょう。年間計画と関連づけながら、学校としての計画的な取組が進められるようになります。(本誌32ページ参照)

(例) 地域連携・協働活動年間計画									
学期／学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級	学校行事等	外部との連携
1学期		学校探検(生)	町探検(社)	クリーンセンター見学(社)	田植え(総)				第1回〇〇地区協議会
		場 学校内 人 〇〇さん	場 〇〇地区 人 〇〇さん	場 クリーンセンター 人 △△町職員	場 〇〇さんの田 人 〇〇さん			場 〇〇学級菜園 人 〇〇さん	場 〇〇公民館 人 自治会長等
2学期									
3学期									

⑤ 社会に開かれた教育課程を踏まえて

新学習指導要領では、よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現を目指しています。

そこで、年度末の活動のふりかえりとともに、来年度の計画段階で、それぞれの協働活動は「何を学ぶのか」という指導内容の見直しだけでなく、「どのように学ぶのか」「何ができるようになるのか。」まで念頭に入れて活動を年間計画に位置付けていく必要があります。



2019年度「学校を核とした地域力強化プラン」の予算案に係るブロック説明会資料(2019, 2)

第4章 学校と地域の連携・協働を進めるに当たって

1 教職員の心得

地域のボランティアを受け入れるためには、まず、学校の受け入れ体制を整えることが大切です。地域の方に気持ちよく活動していただくためには、気をつけておかなければいけないことがいくつかあります。

まず、教職員の心がけです。地域の方は、学校のお手伝い係ではなく、子どもたちのために一緒に教育活動に携わる「パートナー」です。敬意を払い、常に感謝の気持ちを持つことが大切です。そのためには以下のような心得を意識して活動し、信頼関係を構築していく必要があります。

年度始めの職員会議の際に、教職員で共通理解を図るなどして、受け入れ体制の構築に努めましょう。

〈教職員の心得〉

① 地域とのパートナーシップを築きましょう

地域の方は「部外者」ではなく、子どものために一緒に活動する「パートナー」であることを認識しておきましょう。



② 目的、役割を決め、共有しましょう

協力するためには、活動の目的や相互の役割等をきちんと決めて、共有することが大切です。これが連携活動の成否のポイントになります。

また、地域の方は多くの知識をもっていたり、豊かな経験を積まれていたりします。地域の方といっしょに活動することで、教職員自身の修養も積みましょう。

③ 互いに学び合いましょう

地域の方からの意見や相談にしっかりと耳を傾けましょう。また、活動の中で良かったことや気づいたこと、工夫してほしいこと等伝え合いましょう。

④ 笑顔で明るくあいさつをしましょう

地域の方にとって職員室は気軽に出入りできる場所ではありません。入るには、勇気が要ります。そんな時、笑顔で明るくあいさつをされると心がほぐれます。気軽にあいさつを交わし、全職員で気持ちよく対応しましょう。

⑤ 交流の場をもちましょう

地域の方との交流の場をつくり、時にはいっしょにお茶を飲んだりしながら話をしましょう。互いの思いが伝わり、信頼関係が生まれ、活動にも広がりや深まりができます。

※コピーをして教職員に配布するなどして共通理解を図りましょう。

2 受け入れ体制の整備

地域の方を学校に迎えるにあたり、活動予定を職員会議や朝礼等で事前に連絡したりするなど、教職員間で連携活動についての共通理解が図られるようにします。

また、子どもにとっても、地域の方との出会いは、地域とのつながりが広がる第一歩となります。地域の方が来校すること等を事前に説明するとともに、学校や子どもたち自身が地域に支えられていることを子どもたちが理解できるように、日頃から指導を積み上げていくことが大切です。

① 学校の情報を提供しましょう



学校経営計画はもちろん、学年・学級の目標、校務分掌や学校便り等、学校が提供できる情報はできるだけ提供しましょう。

ただし、個人情報等についての取り扱いについては注意が必要です。

② 子どもに説明しておきましょう

地域の方が何のために来校しているのか、子どもに事前に説明しておくことが大切です。学校生活が、地域の方に支えられていることを理解できる事前指導をしましょう。

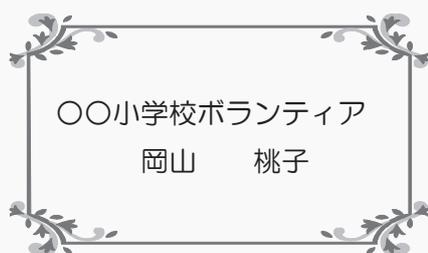
③ 学校行事へ招待しましょう

日頃から、地域住民を学校行事に招待しましょう。行事を通して、子どもの実態や学校の様子を理解してもらう絶好の機会になります。地域と教職員・子どもとのコミュニケーションも生まれ、スムーズな連携が図られるようになります。

④ 施設・設備、教材・教具を見てもらいましょう

学校には、どのような施設・設備や教材・教具があるのかという情報は、学校支援ボランティアが活動内容を考えるときに、とても役立つ情報です。

⑤ ボランティア用名札やリボン等を用意しましょう



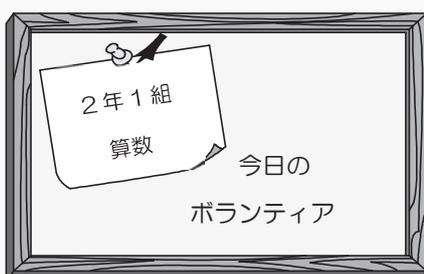
学校支援ボランティア専用の名札やリボン等を用意し、活動中に付けてもらうと、教職員や子どもにも一般の来校者との区別ができます。また、安全管理の面からも大切です。

⑥ ボランティアの居場所を用意しましょう



余裕教室や特別教室を利用して、活動の準備や後片付け等に利用できる「ボランティアルーム」があれば、ボランティア同士や教職員との打ち合わせ・情報交換の場になります。

⑦ ボランティア活動の情報発信に心がけましょう



ボランティアが活動している様子を、子どもや教職員、保護者や地域の人々に伝えるため、校内の掲示板等を利用したり、ボランティアの方や地域コーディネーターと協力して、「お便り」等を発行したりし、紙面やホームページを通して活動の様子を発信しましょう。（※教職員の負担にならないよう気を付けましょう。）

3 地域の方を迎えるに当たっての留意事項

活動に当たっては、以下のことを確認しておくといでしょう。管理職と確認しましょう。

経費 ボランティアの活動内容によっては、材料費や交通費等が必要となる場合があります。活動内容やボランティアによって違いますので、誰が費用を負担するのかについて、事前打ち合わせの時に確認しておく必要があります。

接待 学校の中に簡単な控え室（できればボランティアルーム）を用意すれば十分です。さらに、休み時間に子どもと自由に交流できる機会を設けるのも有意義なことです。

謝礼 ボランティア活動なので原則として無償です。子どもの笑顔と感謝の気持ちが「お礼」となります。活動後に子ども全員に手紙を書かせるなど、負担になるようなことは必要ありません。活動後の会話や挨拶で気持ちは十分伝わります。しかし、「タダだから頼む」という安易な感覚で、ボランティアを依頼するのは好ましいことではありません。

保険 ボランティアでも、対人・対物賠償等損害賠償にかかわる責任を負うことがある旨をボランティアに理解してもらう必要があります。ボランティアの中には、各市町村でボランティア保険等に参加している人なので、事前打合せの時に確認しましょう。分からない場合は各市町村の教育委員会へ問い合わせましょう。

4 地域の方との共通理解について

学校の教育活動において守らなければならないことがいくつもあります。地域の方には、学校の実態を伝えるとともに、打ち合わせやボランティア研修会等の機会に**本誌29ページ**を活用するなどし、共通理解に努めましょう。



守秘義務について

学校支援ボランティアは意欲的です。学校の良いところをどんどん知ってもらい、宣伝してもらいましょう。しかし、学校には個人的・公的な秘密があり、言うまでもなく教職員には職務上知り得た秘密をもらしてはいけないという守秘義務があります。教育活動として、子どもと関わりをもつ学校支援ボランティアも同じで、学校での活動で知り得た秘密（個人情報等）を絶対に守ってもらうよう事前に理解していただく必要があります。外部に対して、また、子どもに対して「言うてはいけないこと」を確実に伝えましょう。

人権について

教職員がボランティアを紹介するときや、子どもからの質問を受けるときなど、何気なく言った言葉がボランティアを傷付けてしまうことがあります。事前打ち合わせのときに、紹介の内容や困る質問等をあらかじめ聞いておくとういでしょう。

また、活動中に、ボランティアの不適切な発言や行動があったときには、その場でフォローしましょう。そして、活動後にボランティアときちんと話し合い、同じトラブルが生じないように努めましょう。

事前打ち合わせのときに、人権に関わる配慮すべき表現等について、ボランティアに理解してもらうことで、トラブルを未然に防ぐことが大切です。

言葉づかいについて

「教育という営みにおいては、私たちの言葉が子供の言動やものの考え方に影響を与えます。差別的な用語や表現に対して、それがなぜ差別的なのかを正しく認識し、配慮しましょう。

【配慮すべき用語や表現と改善例】

父兄	→	保護者	小使	→	学校用務員、校務員
めくら	→	目の不自由な人	裏日本	→	日本海側

社会的性別（ジェンダー）について

「女の子だから手伝いなさい」「男の子はめそめそしない」などと、「女はこうであるべき」「男はこうであるべき」という性別による固定的な役割分担意識にとらわれないように、性差別を助長する表現は使わないように伝えましょう。

体罰について

子どもへの指導において、身体に対する侵害（殴る、蹴る等）、肉体的苦痛に当たる懲戒である体罰を行ってはいけません。（正座、直立等特定の姿勢を長時間保持させる等も、場合によっては体罰に当たることもあることも知っておく必要があります。）

※年度始めにボランティア説明会や顔合わせ会の際に、地域の方に説明をしておくとういでしょう。

第5章 実践事例

育てよう ふるさと愛する荏原っ子 地域ぐるみで学校支援

- 1 **活動名** 井原市立荏原小学校地域学校協働本部
- 2 **対象校** 井原市立荏原小学校 全校児童 113人 (H30.5.1 現在)

3 特徴的な取組

○ふるさと学習

荏原地区の文化・歴史・産業・自然を素材に、1年生「むかし遊び」、2年生「野菜作り」、3年生「早雲蜜芋」、4年生「環境学習」「荏原のために尽くしている人々」、5年生「高齢者とのふれあい」、6年生「伝統を受け継ごう」等の学習支援を行っている。全校の行事では、「本の読み聞かせ」「早雲蜜芋の栽培」「早雲踊り」等の学習支援を行い、ふるさと荏原の理解を深め、ふるさとを愛する心を育てている。



4年 環境学習 (小田川)

○見守り活動

青色防犯パトロール隊 (26台の青色防犯パトロールカー) と共に登下校の見守りや交通教室の支援、参観日の児童の託児サポートを行い、児童の安心安全の確保を行っている。



交通教室の支援

4 地域連携の工夫

○ボランティア便りの配布

年3回ボランティア便りを全戸配布し、活動内容を地域住民に周知し、荏原地区住民が一体となってふるさとを愛する児童の育成を図っている。



○ボランティアルームの整備

ボランティアルームを整備して常時開放し、地域コーディネーターや地域ボランティアの活動拠点としている。

◀ボランティア便り

ボランティアルームでの打ち合わせ▶



○荏原っ子『きょう育』ネットワーク懇談会の実施

年1~2回「荏原っ子『きょう育』ネットワーク懇談会」を行い、地区研修会を行っている。その会には、地域ボランティアを中心に、学校・園の教職員、PTA、放課後児童クラブ、子ども会役員、まちづくり協議会のメンバーが集い、「地域で子どもを育てる」という思いを共有しながら、荏原の子どもたちのためにできることを出し合い、実践に結び付けている。



荏原っ子「きょう育」ネットワーク懇談会

生徒と学校支援ボランティアとの連携・協働 コラボ活動の活発化!

1 **活動名** 美咲町立中央中学校地域学校協働本部

2 **対象校** 美咲町立中央中学校 全校生徒 192人 (H30.5.1 現在)

3 特徴的な取組

○ 豊かな心づくり鑑賞会

「人をつなぐ」をテーマに給食準備中の15分間を利用し、学校支援ボランティアが、「布貼り絵」「皿回し」「Xmas ミュージック」など様々な鑑賞会を開いている。S4の生徒や委員会の生徒も準備や補助などで協力するほか、生徒会委員会と学校支援ボランティアとのコラボによる「七夕飾り」などの鑑賞会も行っている。



豊かな心作り鑑賞会

○ S4の活動

生徒からメンバーを募集して「学校を支える目的を持つ生徒スタッフ」＝S4を結成し、学校支援ボランティアと協力して、環境整備や菊の栽培など学校のためのボランティア活動をすすんで行っている。この他、生徒会と学校支援ボランティアとの連携・協働による「コラボ活動」にも積極的に取り組んでおり、児童館での読み聞かせ「『出前図書委員』参上!」はその一例である。



S4の活動(菊栽培の様子)

4 地域連携の工夫

○ ボランティア研修会の実施

年度始めに職員研修を行った後にボランティア研修会を実施し、学校支援ボランティアが協働活動の目的・意図などを教職員と共有し、年間活動計画を確認している。また、年度末には反省会を行い、活動報告と意見交換などを行っている。



ボランティア研修会

○ ボランティアルームの整備

校内にボランティアルームが整備されて地域コーディネーターが常駐しており、来校した学校支援ボランティアの憩いと交流の場、さらには生徒がコラボ活動で学校支援ボランティアと一緒に活動・交流する場にもなっている。学校と学校支援ボランティアとの連絡・調整も密に行え、学校のニーズに合った協働活動の効果的な実施につながっている。



ボランティアルームでの打合せ

学びの場は地域と共に! —地域と学校を繋ぐ架け橋—

1 **活動名** 岡山県立誕生寺支援学校地域学校協働本部

2 **対象校** 岡山県立誕生寺支援学校 全校児童・生徒248人 (H30.5.1 現在)

3 特徴的な取組

○『アンテナショップ』と『サテライトワーク』

後援会が運営している本校アンテナショップ「野の花ショップ～夢元（ゆげ）～」(JR弓削駅構内)において、毎週火・木曜日に高等部生が学習を行っている。接遇検定での学びを地域で生かし作業学習の製品販売やコーヒーセットの提供を行い、地域の方との交流を通して勤労観を高めている。生徒が給食中にはボランティアが店員として隙間時間をつないでいる。

また、地域の役場や図書館等において中学部生が年に4日程度開店(サテライトワーク)し、作業製品販売やコーヒーセットの販売を行っている。いずれの活動も地域の方から、「地域が元気になる」と大変好評である。

○『地域との交流会』

地域の公民館支館長が実行委員として「地域との交流会」が毎年実施されている。地域の方が主体の活動で、小学校のPTAや中学校の部活動、大学生、地域の一般の方も一緒に活動を行うことでより地域に根差した関係性が構築されている。



アンテナショップ

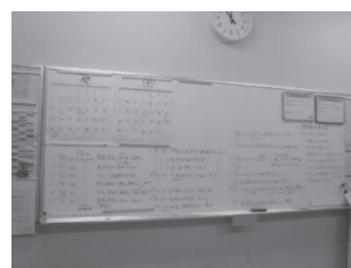


サテライトワーク

4 地域連携の工夫

○コーディネーターとの打合せの工夫

コーディネーター2名が毎週水曜日に学校支援地域本部(校内)に出勤している。教員から出された依頼内容に基づいて、登録ボランティアに連絡を取りコーディネートしていく。本部のホワイトボードには、教員が依頼内容を書き込み、活動状況をまとめ校内外の誰もが分かり、共有・活用できるように工夫をしている。



ホワイトボードを活用した情報共有

○記録・共有・活用の工夫

活動記録をPC共有サーバーに一覧で残し、次年度の学習内容の計画時に活用できるようにしている。同時にコーディネーターがノートに手書きで写真や授業の略案、新聞記事などと共に記録をしていく。

○ボランティア登録の工夫

登録されているボランティアは100名を超えるため、年賀状を発送し来年度の登録継続の確認を行っている。生徒が制作した画像を添えた年賀状は大変喜ばれる。『感謝の会』のご案内も併せて行っている。



活動記録の蓄積

鴨方東小学校の魅力化を支援! 自分が好き 地元が好き 鴨東っ子〜つながりてつくるJ I M O T O のカタチ〜

1 **活動名** 浅口市立鴨方東小学校地域学校協働本部(鴨東セカンドスクール)

2 **対象校** 浅口市立鴨方東小学校 全校児童 359人 (H30.5.1 現在)

3 特徴的な取組

○赤ちゃん登校日

ボランティアの方が、各グループで子どもと親子のコーディネートをし、6年生全児童が、家庭科の学習の中で、0歳児とその保護者との交流を行う。

まだ言葉もしゃべれない赤ちゃんとのふれあいを通して、基本的マナーをはじめ、コミュニケーション力、共感性、相手を思いやること、さらに自分の成長をふりかえることで、命の尊さや親への感謝、役立ち感などを育む一助とすることを目的としている。



赤ちゃん登校日(6年生)

○アサガク防犯教室

老人会パトロールのメンバーが年4回来校し、1年生対象に「アサガク防犯教室」を開催している。不審者への対応や危険な場所など地域での安全な過ごし方について指導していただき、児童は熱心に学ぼうとする意欲をもち、互いに顔の見える関係が構築され、親しみをもち接することができるようになっている。



アサガク防犯教室(1年生)

4 地域連携の工夫

○「地域みんなで子どもの未来を考えるワークショップ」の実施

教職員、保護者・地域住民の代表者が集い、「どんな学校にしたいのか」「どんな子どもに育てたいのか」など、めざす子どもの姿や課題とビジョンを共有し、その課題解決の方策やアイデア出しを行った。

企画運営する上で、地域連携担当(2名)は役割分担し、参加者やワークショップのテーマの調整、ファシリテーション、会場設営などを行う。

三者による熟議を通して、学校に対する地域や家庭の理解が進み、学校・家庭・地域が当事者意識をもって、教育活動の充実や学校・家庭・地域の課題解決に取り組み、地域ぐるみで子どもを育てる機運を高めることにつながるものと考えている。



地域みんなで子どもの育ち
を考えるワークショップ

◆ アンケートから(全員が満足と回答)

- 地域の方の視点は、やはり教員と違うので交流することは大切だと感じた。(教職員)
- こんな子に育ててほしいという思いを形にするために、できることを考えるのは、なかなか難しかった。でも、そこがないと、子どもに何もしてやれてないことにも気づいた。(教職員)
- 学校・保護者・地域それぞれの立場から、また立場を超えてアイデアを出すことで、多くの可能性が広がる。(PTA)
- どのグループも基本的に同じような考えでまとまっていて、これからの「チーム鴨東」の結束力が伺える。(地域住民)

お役立ちシート集

地域連携担当の業務に役立てていただくために、「お役立ちシート」を各種作成しました。

普段の校内での地域連携業務のお役立ていただければと思います。

複数様式を用意していますが、学校の実態に合わせて取捨選択して、ご利用いただきますとともに、ホームページからダウンロードし、編集することも可能ですので、使いやすいようアレンジして使用していただいてもかまいません。

各学校の地域学校協働活動の一助になればと思います。

※ このシートは、岡山県教育庁生涯学習課のホームページからダウンロード

できます。<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/149/>

岡山県教育庁生涯学習課

検索



年度ボランティア登録申請書

申込日 年 月 日

ふりがな		性		生年	
氏名		別		月日	
住所	〒 -				
電話番号		メール			
	活動分野	指導・支援内容（番号に○で囲んでください。）			
	A 環境整備	1. 庭園の手入れ 2. 図書の整理			
	B 登下校安全確保	3. 学校内安全パトロール 4. 登下校の見守り活動			
	C 学校行事支援	5. 学校行事の支援（プール監視、マラソン大会見守り等）			
	D 地域教育支援	6. 地域学習 7. 昔遊び			
	E 学習支援	8. 教科指導補助（家庭科、図工等） 9. 放課後補充学習や朝学習（本の読み聞かせ）			
	F 校外学習	10. 校外学習引率			
	G クラブ活動支援	11. クラブ活動支援（サッカー、茶道等） 部活動支援			
	H その他	12. その他			
趣味 特技	可能な範囲でお書きください。（他にも資格、免許、指導歴等）				
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・活動上の特記事項（活動時間の制限がある等）やその他ご自由にお書きください。 ・都合のよい曜日は（ 月 火 水 木 金 ）です。 ・なるべく（ ）曜日は避けて連絡してもらいたいです。 ・電話は、（ ）時頃かけてもらえると出やすいです。 				

※個人情報の目的外使用はしません。

校内ニーズ調査用紙（年間）

今年度の授業や学校行事、校内の環境整備等の中で、地域ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して地域連携担当まで提出してください。（提出期限 月 日（ ））

【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 (依頼内容・時間数)	必要な地域人材・団体等
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
1			
2			
3			

校内ニーズ調査用紙（学期ごと）

子どもの豊かな成長のために、地域ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して地域連携担当まで提出してください。（提出期限 月 日（ ））

【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 (依頼内容・時間数)	必要な地域人材・団体等 (人数等も)

校内ニーズ調査用紙（随時）

子どもの豊かな成長のために、地域ボランティアの協力を希望するものがありましたら、下記に記入して地域連携担当まで提出してください。（提出期限 月 日（ ））

【第 学年】

月	教科・領域 行事等	活動内容 (依頼内容・時間数)	必要な地域人材・団体等 (人数等も)

※具体的に書いてください。

学校支援ボランティアの心得

① 子どもの良いところをほめましょう

子どもの活動・行動をしっかり見つめて、ほんのささいなことでも、良いところを見つけてほめてあげましょう。子どもはうれしくて意欲的に取り組むようになります。

② 自信をもって大きな声で話をしましょう

せっかく楽しく役に立つ話でも、聞こえなければ子どもは飽きてしまいます。自信をもって大きな声で話しましょう。

③ 時には厳しく、毅然とした態度も必要です

友達の悪口（人権に関わること等）を言ったり、けがや命にかかわる言動があったりした時には、しっかり注意しましょう。ただし、他者と比較して注意することはやめましょう。

④ 次のことは法令で禁じられています

どんなことがあっても行ってはいけません

○守秘義務

学校には個人的・公的な秘密があり、言うまでもなく教職員には職務上知り得た秘密をもらしてはいけないという守秘義務があります。教育活動として、子どもと関わりをもつ学校支援ボランティアも同じで、活動の中で知り得た秘密（個人情報等）は、絶対に守らなければなりません。

○体罰は決して加えてはいけません。

○政治・宗教・営利目的の活動を行ってはいけません。

⑤ 人権について

○社会的性別（ジェンダー）に敏感な視点を持ちましょう。

「女はこうあるべき」「男はこうあるべき」など性差別を助長するような表現は使わないようにしましょう。

○適切な言葉づかいをしましょう。

ボランティアが説明したり、子どもからの質問を受けたりするときなど、何気なく言った言葉が他者を傷付けてしまうことがあります。人権に関わる配慮すべき表現等について、互いに十分理解し、トラブルを未然に防ぎましょう。

⑥ その他

○学校や教職員の批判を子どもの前で絶対に言わないようにしましょう。

○子どもには、えこひいきせず、公正な態度で接しましょう。

○活動の中で気付いたことは、遠慮せず先生に相談しましょう。



年 月 日

_____ についてのご案内

平素より学校支援ボランティア活動に、ご協力いただきありがとうございます。日程等のご案内をいたしますので、ご確認ください。

日 時 月 日() 時 分～ 時 分

場 所 _____

活 動 _____

準備物 _____

特記事項

- 活動中知り得た情報については、守秘義務が発生しますので、他者に漏らすことがないようお願いいたします。
- 活動中に写した写真やビデオは、広報誌や活動報告などで使用させていただくことがあります。(不都合がある場合は、事前に御連絡ください。)

ご不明な点や変更等がありましたら、(_____)までご連絡ください。どうぞよろしくお願いいたします。

(_____)学校 TEL(_____)

学校支援ボランティア事前打ち合わせ用紙

年 月 日

活動日	年 月 日 ()	活動時間： ~
	活動予備日 月 日 ()	活動時間： ~
対 象	小・1 2 3 4 5 6年 中・1 2 3年 (人)	
活動場所	教室 (年 組)・体育館・運動場・特別教室 () その他 ()	
活 動 名		
(分野)	教 科 等 ()	総合的な学習の時間 ()
	学校行事 ()	クラブ活動・部活動 ()
	環境整備 ()	その他 ()
ね ら い		
希望人数	()人程度必要 ()人以上必要	
事前準備	(資料、経費 など)	
役割分担		
伝達事項	ボランティアに事前に伝えておきたいこと	
連絡先	担当教員 TEL	FAX

活動の記録

★以下は活動後に記入し、ファイルへ綴じる。

活動日	年 月 日 ()	~
参加者	ボランティア()名 氏名	
次年度に 向けて		

※次年度に向けて、成果や課題、改善案や留意点等を記入してください。

地域連携・協働活動年間計画

学期／学年	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	特別支援学級	学校行事等	外部との連携
1学期	場 人								
2学期	場 人								
3学期	場 人								

＜参考文献＞

- 佐藤晴雄 編「学校支援ボランティア 特色づくりの秘訣と課題」教育出版 2005年
栃木県教育委員会事務局塩谷教育事務所
「地域と学校を結ぶときに」～子どもたちの笑顔がみたいから～ 2004年
栃木県教育委員会事務局芳賀教育事務所
「地域の学校づくり」
一学社連携・融合ハンドブック（学校編・ボランティア編）一 2003年
青森県教育委員会
「はじめよう 学校支援ボランティア」
～先生と地域のみなさんのためのハンドブック～ 2006年
「ひろげよう 学校支援ボランティア」 2007年
「学校支援ボランティア啓発ハンドブック あなたにもできる学校支援ボランティア」
2008年
滋賀県教育委員会
「さあ、はじめよう！学校支援ボランティア」2008年
岡山県備中地区社会教育委員連絡協議会
「ひろめよう！学校支援ボランティア」
～学校とボランティアをつなぐためのハンドブック～ 2009年
新潟市教育委員会地域と学校ふれあい推進課
地域と学校パートナーシップ事業「ハンドブックⅡ」2011年
和歌山県教育委員会
「地域とつながる 元気な学校」2009年
「ここから始めるつながりづくり」2011年
栃木県教育委員会
「学校と地域を結ぶ地域連携教員のガイドブック」2016年
「学校と地域を結ぶ～学校と地域の連携を進めるノウハウ～」 2017年
文部科学省
「地域学校協働活動の推進に向けたガイドライン」 2017年
「地域学校協働活動 地域と学校でつくる学びの未来」2018年

『学校と地域との連携・協働のための 教職員ガイドブック』

地域から信頼され応援される学校づくり

～ 地域学校協働活動のススメ ～

2019年3月改訂

発行：岡山県教育委員会

毎月10日は 岡山県下一斉



あはつ運動の日

岡山県マスコット ももっち

※ このガイドブックは、岡山県教育庁生涯学習課のホームページからダウンロードできます。<http://www.pref.okayama.jp/soshiki/149/>

岡山県教育庁生涯学習課

検索

<問い合わせ>

岡山県教育庁生涯学習課

〒700-8570 岡山市北区内山下2-4-6

TEL (086)226-7597

FAX (086)224-2035